



活動の総評

総評者：事務局員レッド

- SDGsを通じた学びの中で、世界の各地には、自分たちが普段の暮らしの中では想像できない貧困や不平等にさらされているひとびとが存在することを知り、それが活動のきっかけとなったチームが多くありました。
- 新型コロナウイルスの影響で、発展途上国の貧困層がさらに苦しい状況に置かれていることや、世界には一日100～200円で生活をせざるを得ない人たちがいること、学校や病院にいけない子どもたち、そして日本の中にも貧困が存在することも。
- この状況に対し、それぞれのチームが自分たちでできることを考え、調べ、取り組んでくださいました。具体的には、「物資を送ること」、「途上国を支援するフェアトレードをいう考え方を広めること」、さらには水や空気が世界とつながっていることに気づき、地域の河川のごみ拾いに取り組むチームもありました。どれも、それぞれができることを考え、取り組む、とても素晴らしい活動ばかりでした。
- それぞれのチームは、（小さな活動でも）一人ひとりができることに取り組むことの重要性を感じ、これからも続けていきたいと、という感想を寄せてくださったことも頼もしいです。そして、その活動の広がりをつくるために、情報発信の重要性を掲げてくれるチームもありました。



活動の総評

総評者：事務局員レッド

- 食べ物という、自分たちにとってはほしいときにいつでも与えられるものが、世界には同じように与えられない人たちが多数存在すること、飢餓の存在を学び、行動の必要性を感じた子どもたちが多くいました。
- 飢餓の発生要因を学ぶ子どもたちは、「気候変動による干ばつなどで耕地が荒廃し、食糧生産が落ち込んでいる」ことから、先進国も関与する温暖化が関係していることを学びました。さらには「内戦・紛争などの影響で耕作ができなくなった」といった観点から、食糧援助や資金援助をするだけでなく、紛争などを無くすための政治課題の解決の必要性も学びました。「飢餓」という問題にアプローチするために、さまざまなルートがあること、そして、日本からできること、に気づいたとても重要な学びだと思います。
- 具体的なアクションとしては、食品ロス削減に取り組む活動が目立ちました。中には、実際にスーパーやコンビニなどを取材し、食品ロスを減らす取り組みとして、クリスマスケーキや恵方巻きなどの完全予約販売制や、お総菜などの値引き販売の時間の見直しといった取り組みを進めている事業者の存在を知り、新しい仕組みをつくる大人たち・企業の活動にも注目している様子が見えました。
- また、ひとりひとりの活動の重要性を感じる一方、その広がりをつくることの重要性に気づき、SNSやポスターを活用し、廃棄削減などを呼びかける活動に取り組むチームも多く、積極的に活動を広める素晴らしい取り組みだと思います。



活動の総評

総評者：事務局員レッド

- 新型コロナの感染拡大の中で、発展途上国での感染症状況に目を向ける活動が目立ちました。社会の出来事を敏感にとらえ、目を向けることはとても大切なことです。
- 発展途上国では、貧困層が感染症拡大の中で、適切な対策を取ることができず感染症で亡くなったり、失業によりさらに苦しい状況に置かれる人々がいることを学ぶ中で、自分たちにできることを考え、行動してくれたチームが多くありました。
- 募金活動への参加や、物資の寄付、そして、その活動を情報発信することでさらに広がりをつくることにも取り組んでくれました。



活動の総評

総評者：事務局員ブルー

他国を学ぶことは、自国のことを知るのに一番良い方法の一つだと思います。

日本では義務教育で中学校までは無償で教育を受けられるが、世界では、また日本も一員であるアジアにおいても、まだ教育を受けられないでいる子どもがいることが分かったと思います。

全ての子どもが学校に通えるようになるためには、水や衛生環境の改善、教育者の育成、給食の配布、そして学校の建設が必要不可欠だということも分かったかと思っています。

ただ、そのためには自国の経済・産業の自立が必要で、教育問題の解決を目指しても他に沢山の問題を解決しなければならないことも同時に分かったかと思っています。

しかし、あまりに多くの問題が横たわっていますが、決して悲観はしないでください。一人ひとりが意識し、そして行動することで、一步一步ですが着実に問題は解決に向かいます。

未使用品や不用品の寄付や、募金、ボランティアへの参加など、できることはいくらでもあります。「自分一人が行動したところで…」と無力感にさいなまれてしまうかもしれません。

ですが、ぜひ今回学んだことを、周りの人に伝えて、巻き込んでいきましょう。

ゆくゆくは、教育の重要性や、一人ひとりの行動することの大切さを多くの子どもたちに説ける教育者が1人でも多く育ってくれることを願っています。期待しています。



活動の総評

総評者：事務局員ブルー

日本では、まだまだ「男女格差」が多くの場面で存在しています。

「女性差別」だけでなく、逆に「男性差別」はないか？「女性優遇」はどうなのか？

性別による身体的な機能の差を考慮することは差別なのか？など非常に深く難しい問題です。根拠のない格差は撤廃されるべきですし、殊、政治や経済などの分野において意識改革の遅れが目立つように感じられますが、女性が社会進出することで得られるメリットを説く方が説得力があり受け入れられやすいという考えがでてきたことは目からウロコです。

まずは、自分の普段の生活において、格差があるのか、ないのか考える視点を持ちましょう。ドイツのGirls' Dayになったイベントの開催や、行政に提言書を提出するというプランもぜひ実行していただきたいと思います。

また、LGBTQという多様な性的指向・性自認の方の存在は、最近よく耳にするようになってきたと思います。どんどん増えているという意見もありましたが、これは増えているのではなく、潜在的な割合は変わらないがスピークアウトできる風潮になってきているとも言えるのではないのでしょうか？

昨今、パートナーシップ証明制度の創設や、芸能界でのLGBTQタレントの活躍など、スピークアウトしやすい制度・環境を整えていくことで、認知・理解の促進につながり、社会に溶け込んでいくことができるようになると思います。

日本は世界と比べて男女格差や性的指向・性自認についての考えが浸透していません。

それは、何事にも内に秘めることが美德とされていた日本の精神性や、教育の不足にもあると思いますが、まずは友達や家族との会話からはじめてみてはいかがでしょうか？



活動の総評

総評者：事務局員ブルー

日本では当たり前過ぎて、有り難みを忘れがちな「水」ですが、世界では水をめぐり戦争が起こるほど水の安定確保は重要な問題です。

水が無い→トイレも無い→不衛生→不健康→収入の不安定化→子どもへの教育の不足→抜け出せない貧困→治安の悪化…

と、水の問題を発端として、幾重にも問題が連なっている、または相互に重なり合っていることに気付かされます。

また、考えれば考えるほど他人ごとではないと思えるようになるのではないのでしょうか。

一昔前に比べればかなり改善はされたように見える日本でも、今なお水質汚染は存在し、解決の目処が立っていないものも多いようです。

工業・産業排水は改善されたとされていますが、生活排水は悪化したというデータも出ています。

アクリルたわしはその1つの解決策と言われてもいましたが、最近では化学繊維で出来ているアクリルたわしは、

近年問題化しているマイクロプラスチックの発生源の一つということが分かりました。化学製品の使用を一気にやめることは正直難しいかもしれませんが、取り組みの中でもあったような洗剤使用量の削減や

そもそも洗う機会を減らすなど、私たちでも努力すればできることが多くあります。

それは間違いなく、SDGs達成に近づく取り組みであり、世界の誰かの命を救うかもしれない価値ある行動の1つです。



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2020

活動の総評

総評者：事務局員グリーン

- エネルギー資源が少ない日本における「原子力発電」の現状やメリット、デメリットについて深く調べ、今後の取り組みについてアイデアを考えてもらいました。さまざまな情報や議論が飛び交い、どう向き合うべきか、結論は出せない部分が多いですが、このような難しい問題にチャレンジすることが、将来のエネルギー問題の解決の第一歩となると思います。
- エネルギーの節約を、周囲に呼びかけて啓発するとともに、生活の中でどのような節約ができるかを考え、取り組むことで、「自分たちにできること」を見つめ直すことができたと思います。そのなかで、さらに一歩踏み込み、このエネルギー問題を、次世代の人たちの生活にも関わる問題として捉え、未来のために何をすべきか、という問いかけを、「世代エゴイズム」という新しい概念を使って表現するチームもあり、このような長期的な視点をより多くの方に持ってもらうことも、重要な課題だと感じました。



活動の総評

総評者：事務局員グリーン

どうすれば「働きがい」を感じることができるのか？という問題に対して、雇用者と労働者の関係性ではなく、消費者との関係性という、違った切り口から考えていたところは目から鱗でした。生産者へのリスペクトが働きがいにつながる、という視点を、より多くの方に持っていただきたいと思いました。

ただ、このような情報には、残念ながらさまざまな操作が入ることも事実です。メディアリテラシーにも目を向けるということも重要な視点だと思います。

また、経済が発展するという事は、いいことばかりではなく、その一方で大きな問題を生み出している、ということにも着目していただきました。

「経済」という大きなうねりに対して、ひとりひとりの力は無力、ということを感じた、というコメントもありましたが、その一人ひとりの積み重ねが、大きな力になると思います。

10 人や国の不平等
をなくそう



みんなのSDGs宣言

for EDUCATION 2020

活動の総評

総評者：事務局員グリーン

グローバルな人種差別だけでなく、男女別や障がい者差別など、普段無意識にやっ
てしまっているかもしれない「身近な差別」についても考え、話し合っていたく
ことで、現状の把握と理解、これからの行動を見つめ直していただくことができた
と思います。

生まれ育った環境によって、差別や偏見に対するリテラシーは大きく変わります。
これを改善するのが知識だと思います。どんな人がいて、どんな考え方をもち、ど
んなことをされたら傷つくのか、勉強を続けることでたくさんの知識をもち、たく
さんの人と触れ合い、この問題に引き続き向き合っていたきたいと感じました。



活動の総評

総評者：事務局員オレンジ

- 地域の為に出来ることというテーマに対して、一番多いのはゴミ拾いでしたね。ゴミ拾いってとっても簡単なことかもしれませんが、他人が捨てたものを拾うってとても抵抗があることではないでしょうか？簡単な行動かもしれませんが、出来ない人はとても多いと思います。この活動を通して、出来ることはとても些細なことかもしれませんが、1つ1つの力が集まれば、とても大きな力になるのだと感じてくれた生徒さん達がとても多かったです。
- ただゴミを拾うだけでなく、現状を調査して、市などへ自分達のアイデアを提言できるのではと、すぐにできることから次のステップを見出したグループも多かったですね。外へ発信するという点では、駅等にポスターを貼って啓発活動をされた生徒さん達がいました。発信をすることで、地域の方たちの意識改革につながります。そして、今回の活動で地域の方とコミュニケーションを取ったことによって、自分も地域の一員であるという意識が高まった生徒さん達もいました。
- ゴミ問題を入口に資源の大切やそれに伴う、リサイクルの大切さ、あるいは残食問題や節電の必要性を知って、これらの問題も意識して、日々の行動に繋げていっている生徒さんが多かったです。入口はどのようなことでも、そこから別の問題に気づき、活動の幅を広げ、継続的に行動していった欲しいですね。
- 地域の商店街に賑わいをもたらしたい、活性化させたいというテーマを持ったグループも沢山いました。学校で学んでいることを活かし、定期的に自分たちの活動を実施することで、少しでも商店街への集客率を高めたいと考えたり、まずは、地域の現状を知ることが大事と考えていろいろな所に足を運び、商店街の方たちにインタビューをしたり、地域開催のシンポジウムに参加し、同年代が地元に対してどのように考えているのかを知るなどの調査から始めたグループもいました。自分達にできることから…沢山のグループがゴミ拾いからでしたが、あるグループでは地域の食品会社の新商品開発のお手伝いにと試食をし、意見を述べるという形で協力をしていました。地域への貢献は、いろいろな形があるのだなと思いました。
- 全く別の視点から、このゴールに注目したグループがいました。近年多発している災害により多くの命が失われていることから、自分だけでなく沢山の人の命を守るためにできることはないかと考えました。対策や事前にやっておけることを考え、校内に発信しました。校内だけではなく、是非、校外にも発信していった欲しい内容ですね。
- 最後に、この11「住み続けられるまちづくりを」が一番多く取り上げられたゴールでした。このゴールを達成するには、まず、地域を知り、地域の方たちとコミュニケーションを取り、自分達が地域の一員であるという思いを持つことが大切なことかもしれません。



活動の総評

総評者：事務局員オレンジ

- 学校で学んだことを活かして、地域企業でどうしても発生してしまう廃棄を削減するために、地域の異業種の企業と協力して廃棄されるはずのものを利用して商品化・販売をしたグループがありました。物を大切にすることを通して、地域の方たちとのコミュニケーションも深まって、このことが地域の活性化にも繋がって欲しいと思いました。
- 食品ロスの現状やそれに対して行われている対策について調査をするグループがいくつかありましたが、調べたことによって解決には程遠いなと少し落胆された生徒さん達もいました。是非、そこで留まらず、どのようにすれば良いのか、自分達に何かできることはないのかを考えてみてもらいたいですね。
- 食品ロスの現状を知るために自治体へ取材をした時に、長野県には多いとされる耕作放棄地という別の問題を知り、農業だから何もできないとあきらめるのではなく、何かできないかと考えたのは素晴らしいですね。このグループは、農業ではない形で、その土地を利用してできる方法を考えました。問題の解決方法は、1つだけではないのかもしれませんが。もし解決方法につまずいたら、違う角度から問題を見て、考えてみてください。何かしらの解決方法が見つかるはずです。
- 資源の無駄使いは、環境へ悪影響を及ぼすという観点から、リサイクルをテーマとして活動をしたグループも多かったですね。自分達でできることに加えて、各団体の役割や家庭でできることあるいは、企業が行っているリサイクル活動について調べ、ポスター制作し校内への発信あるいは、古紙再生紙回収ボックスを校内に設置したり、古着をリサイクルに出したり、別の物に作り替えて再利用をしたりとリサイクルと言ってもいろいろな形がありました。そして校内でバザーを企画し、そのことを通して社会の仕組みを理解し、大人だけでなく自分達も未来を良くできる活動があるということに気づいた生徒さん達もいました。
- このゴールを知るためには、自分達が一から物を作ってみれば知ることができると考えたグループがありました。実際に種をまくことから野菜を作り、日々の大変さを知り、一生懸命作ったものを捨てられるかと思ったら悲しかったと感じたそうです。この経験をもとにもっと食料を無駄にしないことを広めていきたいという、発信の意欲につながったようです。自分達が経験したからこそ、発信できる内容があり、説得力があるのではないのでしょうか？
- 最後に、この12「つくる責任 つかう責任」は、取り上げられたゴールの中で2番目に多かったです。という事は、皆さんが日頃の生活で物が無駄にありすぎるあるいは、無駄に使われていると感じているのだなと思いました。そして、調査や活動を自分達に留めることなく、低学年にプレゼンし、継続性の大切さを伝えてくれていますね。この活動を通して、他のゴール11「住み続けられるまちづくりを」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」も同時に達成できそうな活動になったようです。



活動の総評

総評者：事務局員オレンジ

気候変動（地球温暖化）対策として一番あげられるのがCO2削減ということは、多くの皆さんが知っていることだと思います。生徒さん達が現状を調べた結果を一部ご紹介しますと、海面が1m上昇するだけで日本の砂浜が9割消失したり、2100年には九州では桜が見られなくなり、四国や関東の一部では満開の桜が見られなくなるということです。これは、皆さんの想像以上の現象ではないでしょうか。

沢山の生徒さん達がCO2を削減するために、1人ひとりができることをあげてくれました。

- 冷暖房の設定温度をいつもより1℃上下させる
- エコバッグを持ち歩く
- 植物を育てる
- 公共交通機関を利用する
- テレビの利用を減らす
- 節水する
- リサイクルする
- 炊飯ジャーの保温機能を使わない
- 資源節約
- ゴミを分別する
- コンセントはこまめに抜いて待機電力を減らす
- 詰め替え可能な製品を使うようにする

これらの行動は、SDGsの活動としてでなくても、日頃の生活ですぐに実行できることばかりですね。

これらの行動を続けると、どのような効果をもたらすあるいは、もたらしたかと言うと、結果も報告してくれたグループがありましたので、こちらも一部ご紹介します。

- 家庭で1人が年間に削減できる量 ⇒ 住居由来:2,400kg 食料由来:1,400kg 移動由来:1,600kg
- シャワー利用時間を1分減らす ⇒ 年間69kgのCO2が削減でき、約7,100円の電気代の節約
- 冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する ⇒ 年間約1,800円の電気代の節約
- 使わない電化製品のプラグをコンセントから抜く ⇒ 年間約6,000円の電気代の節約
- 半身浴 ⇒ お湯の節約にも繋がり、全身浴より早く体が温まり、健康面でもメリットがあるCO2削減に繋がる行動をすることで、地球温暖化対策だけでなく、いろいろな方面で良い効果もたらされるというのが分かりますね。そして一人ひとりのわずかな努力が重なるととても大きな力、影響になるということも示してくれています。

気候変動に関する現状調査を行って、『自分達のやったことがすぐに効果は出ないかもしれないが、何もせずにいられないと思った』というとても心強い言葉を発信してくれた生徒さん達がいました。同時に生徒さん達は、切羽詰まった状況であることを把握してくれたことだと思います。多くのグループが現状を調べ、自分達に何ができるのか、そして実際に活動した結果を低学年へ発表し、継続的な活動が必要であると主張してくれました。今回の活動を通して、学生である自分達が社会問題に取り組めるということが分かったのではないのでしょうか。一番の対策は、日々の自分達の行動にあります。次は、今回得た想いや結果を外に発信して行って欲しいですね。



活動の総評

総評者：事務局員オレンジ

長野県は海なし県ではありますが、昨年同様、このゴールに取り組んでくれたグループはとても多かったです。

海洋汚染の現状を調査したグループの報告によると、海洋ゴミ（プラスチック）、ゴミの不法投棄、生活排水、船の事故等による油の流出、工場からの化学物質の排出が原因であること、海に流れ込んでいるゴミのうち7割が陸域からで、毎日数トンのごみが川から海に流れ込んで、海を汚染し、生態系に影響を与えているということでした。

これらの原因の中から多くのグループが注目したのが、海洋プラスチック問題への対策でした。自分達に何ができるかを考える時に多くのグループが3R（リデュース・リユース・リサイクル）に基づいて考えていました。皆さんは、4Rというのを知っていますか？欧米を中心に環境問題に対する主流の考え方となってきています。3Rにリフューズ（断る）という考え方が加わったものです。リフューズとは、スーパーなどで不要なレジ袋や梱包を積極的に断るという行動です。

具体的な活動として、いくつかあがっていました。

- 紙製のストロー、ショッピングバッグを使う
- エコバッグを使う
- ペットボトルではなく水筒を使う
- MSC/ASC認証の魚を買う
- 町のごみ拾い
- 排水溝掃除
- ゴミの分別をする
- 川や川辺でのゴミ拾い

そして多くの皆さんが着目したのが、新聞紙やいらなくなった布でエコバッグや箱を制作することでした。自分達で作るだけでなく、他の学年の生徒さん達や地域の方たちと一緒に制作をしたり、自分達が制作したエコバッグを小売店に寄付をしたり、地域に配布したりしていました。このことを通して、自分一人ではできないことも仲間と協力することで大きな行動に繋がり、地域の方たちへの意識改革に繋がり、皆で活動することでそれがどんどん広がって、最終的には環境の改善に繋がっていくということに気づいた生徒さん達もいましたね。

これらの活動を通して、海のない長野県に生活しながら、海洋汚染やそれに伴う生態系への被害を、他人事ではなく、自分事として考える良い機会になり、海は身近にはありませんが、自分たちの行動も結果的に「海を汚す」ことにも、「海の豊かさを守る」ことにも繋がるということをお学べたのではないのでしょうか。海がなくても川を通して、海を汚してしまいます。ゴミなどが川を通して海に流れ出る前に防ぐという行動は、沢山ありますね。ゴミを減らす、ゴミを分別する、川辺でゴミ拾いをする、ゴミを川に捨てないように呼び掛けるなど、海洋汚染は、海のない長野県にも影響が及んでいるということをお心に留め、是非、活動を続けていって欲しいです。



活動の総評

総評者：事務局員イエロー

- 環境問題の学習を通して、「自分一人ではできることは小さいけれど、小さな一歩を踏み出さなければ何も解決しない」ということを知った生徒さん。そう、まずは自分のできることから始めていくこと、それが世界中に広がることで大きな力になっていきます。
- 節電、節水に取り組んでいる生徒さんもありました。トイレの水を節約する、就寝と起床を早めることで電気容量を減らす、歯を磨く時の水の量を節約する…自分たちだけの活動だけでは限界があると知り、広報活動を行うことでそれらをより大きな力になるようにしたいと思ったそうです。そうですね、まずは自分から、そしてみんなで！
- 普段あるゴミ置き場にあるゴミの数を調べ、その後のゴミの行方を追った活動もありました。またゴミを減らすため、街の皆さんに協力いただきポスターを掲示し、活動をPR。活動をとおして「ごみを減らすための取り組みは、捨てる時だけでなく、物を買う時から考えていかななくてはいけない。何を選んで買うのか？」と感じたそうです。持続可能な生活とはどのような形でできるのか、生徒さんたちはそれぞれ自分ごと化して考えられたと思います。

地球温暖化の影響が生活の中でわかるようになってきましたね。環境問題は地球の問題として待ったなしの状況まで来ています。陸の豊かさは私達の生活にも直結しているもの、地球の替えはありません。私達にできることを少しでも進めていきたいですね。



活動の総評

総評者：事務局員イエロー

- 平和学習を通じて国内のいじめだけではなく世界の紛争のことも知った生徒さんたち。SDGsをとおして、世界の様々な問題に触れ、これから自分たちにできることを真剣に考えていました。
- 世界の発展途上国について知りそれに対して活動するNGO団体があることを学習した生徒さんもありました。感じた使命感と罪悪感を次の活動に繋げていきたいと感想を語る生徒さん達。SDGsを通して、活動の次の一歩が見えてきそうですね。
- あいさつ活動をとおして、人を選ばず誠実に対応することを知った生徒さんたちもいました。そこから人種差別について学ぶきっかけとなり、世界の問題として強く認識する機会となったようです。

かけがえのない平和、当たり前のように享受していて空気のような実感のない平和ですが、ある国にとっては平和が当たり前でないところもある…学習を通しておそらくたくさんショックな事実を知ったことでしょう。でも、その記憶は人生でかけがえのない知として集約されることだと思います。そして新たな一歩への大いなるエネルギーになるでしょう。これからの活動も頑張ってくださいね！



活動の総評

総評者：事務局員イエロー

- 17番の項目では数々の取り組みをしているみなさんがクラス全体、学校全体でSDGsのムーブメントを広げていく活動が多くありました。
- 学校の他の生徒達にもSDGsを知ってもらいたいと新聞やPRボードを作成し掲出した学校や、コロナウィルスを予防するために学校全体に取り組みを呼びかけた学校もありました。SDGsのこと、世界のことを知り、それを他の人達に伝えることで更に自分たちのSDGsの理解、そして未来に向けた考え方を吸収したものと思います。
- 学校祭にSDGsを取り入れた学校もありました。SDGsの目標をより多くの人たちに知ってもらえるようイベントを企画し、たくさんの人達に体験していただきました。
- 模擬店でカフェを作りみんなの憩いの場を提供する学校もありました。ゴミを減らしながら提供するにはどうしたらよいか…実際の社会で直面する問題をこの活動を通して、実感していただいたものと思います。
- SDGs学習中、「学校の中でどれくらいの人がSDGsを知っているんだろう？」と疑問を持ち、他の学年の生徒さんたちにプレゼンテーションを行った学校もありました。

皆さん「SDGsを知る」という行動をとおして、世界のこと、日本のこと、未来のことをたくさん知り、そして「これは自分だけじゃない、みんなが知らなきゃいけないんだ」と行動を起こしました。SDGs達成のためにはパートナーシップは欠かせません。これからもたくさんの人たちと手をたずさえ、活動を続けてくださいね！